

# 事例報告作成ガイドライン

Ver. 1.3 2020年2月9日

事例報告を投稿する際のガイドラインとして、以下を参考にしてください。

## 1. タイトル

対象動物や行った動物看護過程の内容を含み、全体像が分かるものにしてください。

## 2. 背景および目的

取り組もうとした動機、動物看護過程の導入経緯、この報告によって何を学べるのかについて、明確に記載してください。

## 3. 事例紹介

動物看護方針に関連する個別因子（年齢、性別、性格など）と環境因子（飼育環境、飼い主情報など）について記載し、表記にあたっては個人情報保護に努めてください。

- 名前：「柴犬Cちゃん」など品種とアルファベットに置き換えてください。
- 年齢：開始時の年齢を記載し、生年月日は記載しないでください（例：10歳5ヶ月齢）。
- 性別：避妊去勢の有無についても記載してください（例：未避妊雌、去勢雄）。
- 現病歴：現在抱えている問題や関連する既往歴について記載してください。
- 経過：動物看護過程の対象となるまでの経緯、現病に関連する経過に限定してください（以前治療に関わっていた他施設名等、個人や団体に不利益を生じる内容については記載しないでください）。
- 環境因子として飼い主等の属性が関連する場合は、年齢は30代、職業は学生、公務員、会社員、獣医療関係者など特定されない表現にしてください。
- 飼い主に説明し、発表の承諾を得ていることを記載してください。
- 事例の写真を掲載する場合は、あらかじめ飼い主の許可を得てください。

## 4. 動物看護過程

看護動物が抱える問題、それを解決するための動物看護過程の基本方針について、以下の内容を記載してください。

- 動物看護上の問題点
- 動物看護計画（目標とする看護動物の状態と、達成するまでの期限）
- 動物看護実践（具体的な援助方法、自分なりの工夫、その発案に至った過程等を含む）
- 目標達成の評価方法（判断基準や根拠について適宜引用文献を用いて示す）

## 5. 結果

動物看護過程によってどのような経過をたどったのか、得られた評価指標の変動、看護動物の変化などを時系列に沿って客観的に示してください。必要であれば図、表、写真等を用いて分かりやすく説明してください。

計画の変更や予期せぬ変化が認められた場合はそれらも記述し、考察にその内容に関して自身の見解を示してください。

## 6. 考察

得られた結果に基づいて分析し、導き出した内容が何を意味するのかを解釈して記載してください。「良かった」、「思った」等の主観的な表現、明確な評価方法を示さずに評価を行うことは避けてください。適宜引用文献等を用い、根拠を明確に示してください。

目的から考察まで一貫性を持って整理されていることを確認してください。

## 7. 結論

この事例を通して得られた学びについて簡潔にまとめてください。今後の課題についても簡潔に記載してください。結果や考察で触れていないことは記載してはいけません。

## 8. 引用文献

日本動物看護学会誌の投稿規定に準じて記載してください。

### <倫理的配慮と飼い主への説明>

患者動物とご家族のプライバシー・権利を守るのは動物看護師の責務です。看護動物およびご家族の匿名性の確保に努めてください。発表にあたっては所属施設長（病院長等）の許可を得た上で、飼い主に書面または口頭にて以下を説明し発表の承諾を得てください。

- 情報を他の動物病院と共有することで、多くの患者動物の看護に貢献できる。
- 倫理的に問題のある内容は含まない。
- 匿名表記を用い、個人情報の保護に努める。